【Vol.9】2026.11.12発行

三幸通信～3分で読める!! 現場で役立つ介護情報～

介護現場を支えてくださっている皆様のお力になれるよう、三幸福祉カレッジより情報をお届けします。

今号のテーマ ▸施設で育てる「デジタル中核人材」～介護現場の生産性向上を進めるために～

介護現場でICTや介護ロボットの導入が進む一方で、「導入したけれど、うまく活用できない」という声も聞かれます。
介護テクノロジーを効果的に活用するには、機器を導入することだけでなく、
現場の課題を把握し、職員同士で協力しながら業務改善を進めることが大切です。
今回は、その推進役となる「デジタル中核人材」の役割や育成、
施設全体で取り組むためのポイントをご紹介します。



1 デジタル中核人材とは？

介護現場の『困った』を、改善につなげる推進役！

介護現場の課題を把握し、介護テクノロジーを活用しながら、組織全体で業務改善を推進する人材です。
職員と協力しながら、介護の質と生産性の向上を目指す役割を担います。





2 国も「デジタル中核人材」の育成を推進

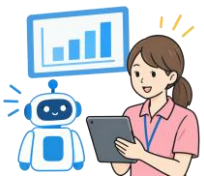
厚生労働省では、「デジタル中核人材養成研修」を実施しています。
介護テクノロジーを活用し、現場の業務改善を進める人材の育成が進められています。
詳細は厚生労働省のホームページにてご確認ください。

出典：厚生労働省　令和8年度 デジタル中核人材養成に向けた調査研究事業一式
「デジタル中核人材養成研修」の周知及び受講勧奨のお願いについて

3 デジタル中核人材に求められる力

厚生労働省の研修でも、介護テクノロジーの活用だけでなく、
チームで業務改善を進める力も重視されています。
では、どのような職員が、その役割を担えそうでしょうか？

- 現場の困りごとや課題に気づく
- **周囲の職員を巻き込み、チームとして取り組める**
- 新しい取り組みに関心がある
- 「業務をもっと良くしたい」という意欲がある



POINT

デジタルに一番詳しい人を選ぶ必要はありません!!

「うちは詳しい職員がいない…」と考える必要はありません。
現場の困りごとを見つけるのが得意、周りの職員と一緒に改善できる、そんな人を推進役として、育てていくことが大切です。

4 施設全体で取り組む3つのポイント

人材を育成するだけでなく、育成した人材と共に、**施設全体で学びを実践すること**が、
継続的な業務改善につながります。

①現場の声を集める
職員が日々感じている課題を共有する。

②一緒に考える
デジタル中核人材だけでなく、立場を超えて改善策を話し合う。

③組織で継続する
管理者も関わり、実践や振り返りを支え、協力体制を整える。

デジタル化の主役は「機器」ではなく「人」

大切なのは、現場の課題を見つけ、職員と協力しながら改善を続けること。
介護の質を高め、職員が働きやすい環境づくりにつなげていきましょう。



出典：厚生労働省「介護保険最新情報 Vol.1531令和8年度 デジタル中核人材養成に向けた調査研究事業一式
『デジタル中核人材養成研修』の周知及び受講勧奨のお願いについて」（令和8年7月31日）

SANKO GROUP
実務者研修修了生数No.1
三幸福祉カレッジ
※厚生労働省一般教育訓練給付制度・専門実践教育訓練給付制度令和5年度実務者研修
三幸福祉カレッジ
ホームページはこちら▸▸▸